

中間評価（表紙）

高梁市 歴史的風致維持向上計画（第2期）（令和3年3月29日認定）  
中間評価（令和3年度～令和7年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的町並みの保存に関する方針	3
II 歴史的建造物の保存・修理及び活用に関する方針	4
III 伝統文化の保存・継承に関する方針	5
IV 周辺景観に関する方針	6
V 滞在型観光の充実に関する方針	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 歴史的環境の保全・活用	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 古民家再生事業	9
B 高梁地区道路美装化事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 城下町高梁に見る歴史的風致	11
2 銅山と弁柄による繁栄に見る歴史的風致	12
3 備中神楽に見る歴史的風致	13
4 渡り拍子に見る歴史的風致	14
■ 庁内体制シート（様式6）	15
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	16
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	17

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
<b>① 歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町高梁に見る歴史的風致	I, II, III, IV, V	
2	銅山と弁柄による繁栄に見る歴史的風致	I, II, IV, V	
3	備中神楽に見る歴史的風致	III	
4	渡り拍子に見る歴史的風致	III	
<b>② 歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	歴史的町並みの保存に関する方針		
II	歴史的建造物の保存・修理及び活用に関する方針		
III	伝統文化の保存・継承に関する方針		
IV	周辺景観に関する方針		
V	滞在型観光の充実に関する方針		
<b>③ 歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
i	歴史的環境の保全・活用		
<b>④ 代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	古民家再生事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	高梁地区道路美装化事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
方針	I 歴史的町並みの保存に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 市内には歴史的建築物や山並み、町並み等が一体となって良好な景観を醸し出す地域がいくつかあり、平成26年に「高梁市景観計画」を策定し景観形成に力を入れている。

市内の大部分が山間部の農村地域である本市では過疎化や少子高齢化が進んでいるが、市の中心部である高梁地区においても人口減少が進んでおり、空き家や空き地が増え、連続性のある町並みが失われつつある。併せて生活スタイルの現代化や建物の老朽化による建て替えによって、駐車場や現代的な家屋も増加している。

吹屋は、高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区に選定されており、計画的に家屋の保存、修理修景事業を実施しているが、空き家が増加し十分な維持管理が行われていない家屋もある。

【方針】 高梁市歴史的町並み保存地区や高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区をはじめとした歴史的町並みの保存・修景を図るとともに、状態の把握、保存に向けた情報収集を行う。

高梁市歴史的町並み保存地区整備事業を実施し、町並みの保存・修景を図る。高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区では計画的に家屋の保存や修理、修景事業を実施し、地域住民の理解と協力を得て歴史的町並みの連続性の維持向上を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	高梁市歴史的町並み保存地区整備事業	平成10年度から累計 修理44件、修景29件、工作物10件	あり	H10～
2	重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	昭和52年から累計 修理131件、修景25件	あり	S52～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○高梁市歴史的町並み保存地区整備事業

歴史的な町並みを保存し後世に伝えていくため、城下町の面影を残す路線を景観形成道路とし、その沿線の建築物等を対象として、市が定める条件に合った歴史的に価値がある建築物等の外観を、保存修理・修景するものに対する補助を行っている。2期計画では15件、累計83件の補助を行い、歴史的風致の向上を図ることができている。

○重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている吹屋地区の歴史的風致を継承していくため、伝統的建造物の保存修理等に対する支援を行っている。傷みが激しくなった伝建家屋を順次整備していくことで歴史的風致の維持向上を図った。



歴史的町並み保存地区補助金



重伝建保存地区補助金

④ 自己評価

人口減少に伴う空き家・空き地は増加しており、町並みの連続性が失われるケースは見られるが、長年にわたり歴史的町並み保存地区および吹屋伝統的建造物群保存地区の歴史的町並み保存に努めてきており、一定の成果は表れている。

⑤ 今後の対応

引き続き補助事業を継続することにより、歴史的町並みの保存に努める。歴史的町並みが、高梁市の歴史的風致を形成する大切な資産である、と市民に認識してもらうため活動の周知に努める。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存・修理及び活用に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 市内には多くの文化財があり、これまでも歴史的な建造物の調査を実施し、保存に努めてきた。

重要文化財や一般公開されている文化財は比較的整備が行き届いている一方で、歴史的建造物は個人所有の物件が多く、保存や修復には費用等課題は多い。また活用についても保存状態や維持管理の課題がある。歴史的な遺構についても同様である。

【方針】 文化財、歴史的建造物や遺跡の調査研究を継続的に行い保存活用するとともに、未指定文化財の調査を進め、適切な管理を行い活用を図っていく。

第1期計画で未実施であった歴史的風致形成建造物の指定により、修理修景を行い、公開などの利活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	郷土資料館保存修理事業	H23～24 建物調査、報告書作成 R3～4 瓦吹替・外壁塗装修理工事	あり	H23～R4
2	松連寺本堂保存修理事業	R4～5 本堂屋根等保存修理工事	あり	R4～R5
3	旧吹屋小学校校舎保存修理事業	H25 基本設計、構造診断 H26 実施設計 H27～R4 保存修理工事 R4 竣工、公開	あり	H25～R3
4	ベンガラ館整備事業	R4 協議 R5 水車改修工事 R6 導線木等修理整備工事	あり	R4～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○旧吹屋小学校校舎保存修理事業

H24まで小学校として使われていた明治期の木造校舎だが、傷みが激しく耐震機能もないため全解体による保存修理を行った。解体前と工事中に各数回の現場公開を行い、文化財および修理の周知に努めた。R4に竣工し観光施設として公開。R5には校舎内に日本遺産センターを設ける等吹屋地区の魅力発信に努めている。

○ベンガラ館整備事業

S52に吹屋の弁柄工場を再現して整備された施設で、老朽化による傷みが激しかったことから損壊の見られる部分を修理整備した。R7にはトイレ改修を行い、観光客の利便性が向上した。



旧吹屋小学校校舎



ベンガラ館

④ 自己評価

歴史的風致に必要な歴史的建造物の保存修理を行うことで、一般公開や見学につなげることが出来ている。また現場公開を行うことで保全等に対する意識醸成につながった。

⑤ 今後の対応

歴史的建造物を次世代へ残す方法を探りながら、今後も所有者と協力しながら適切な修理・保存活用を図る。現場公開等の周知を積極的に行うことで意識の醸成に繋げながら事業推進を図る。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
方針	Ⅲ 伝統文化の保存・継承に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

松山踊りや備中神楽、渡り拍子などの伝統的な祭礼や民俗芸能について、歴史的風致を形成している地域固有の歴史や伝統を反映した人々の活動を活発にし、これを将来へ確実に継承する必要がある。

【方針】

保存団体が行う保存伝承活動、後継者育成活動への支援、また啓発や情報発信を行う等保存継承に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	松山踊り保存伝承活動推進事業	活動経費、用具整備への補助 事業費の1/2	あり	R3～R12
2	備中神楽・渡り拍子保存伝承活動 推進事業	活動経費、用具整備への補助 備中神楽：100千/団体、3千/人 渡り拍子：10千/カラ 用具整備：事業費の1/2	あり	H23～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○松山踊り保存伝承活動推進事業

松山踊りは県重要無形民俗文化財に指定されている民俗芸能であり、歴史的風致を構成する文化財である。音頭や踊りの所作等を後世に継承していくことで、歴史的風致の維持向上に努めている。担い手不足による活動費用の捻出が課題であり、用具整備等への補助を行っている。

○備中神楽・渡り拍子保存伝承活動推進事業

国重要無形民俗文化財の備中神楽、県重要文化財の渡り拍子は、高梁市を代表する民俗芸能であり、地域に根差した歴史的風致を形成する中心的な文化財である。後継者育成や伝承活動に取り組む各団体に対し活動経費、用具整備への補助を行っている。



備中たかはし松山踊り



備中神楽



渡り拍子

【補助団体数】	R3	R4	R5	R6	R7
備中神楽保存団体	2	2	3	3	3
備中神楽育成団体	9	8	8	8	8
渡り拍子伝承育成団体	7	11	15	15	17
用具整備	4	4	7	4	2

④ 自己評価

少子化等による担い手の減少により活動団体の減少・規模縮小がみられるが、備中神楽の県外公演や渡り拍子の補助申請数増加等明るい兆しも見えてくる。

⑤ 今後の対応

神楽がユネスコ無形文化遺産登録候補になる等地道な活動の成果が見えている。後継者の育成は依然厳しい状態ではあるが、引き続き補助を行うほか周知を行う等保存活動の支援を行っていく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
方針	IV 周辺景観に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

高梁市景観計画に基づき、建物の新改築や屋外広告物の設置等について、歴史的な町並みの景観形成を図る。

また、良好な景観は市民共有の財産である、という認識の醸成等啓発に取り組む。

【方針】

無電柱化事業や道路美装化事業を検討・実施するほか、景観に配慮した案内看板等を検討・実施する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	高梁地区道路美装化事業	重点区域にある主要道路の美装化 R5:320m R6:290m R7:270m	あり	R5～R12
2	吹屋地区道路美装化事業	重伝建地区を貫通する道路の美装化 R4:187m R5:436m	あり	R3～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○高梁地区道路美装化事業

R4に、当初計画の施工範囲を拡大し、歴史・文化を活かした景観と回遊性の向上に寄与できるものとした。工法を改質アスファルト舗装とし、1期計画で施工した美装化道路と同一色にすることで歴史的風致の維持向上に寄与することができている。現在、予定の3割程度の道路について美装化が完了している。

○吹屋地区道路美装化事業

高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区を貫通する道路の傷みが激しかったため道路の美装化を行った。

このことにより歴史・文化を活かした景観の向上、来訪者の回遊性の向上にふさわしい景観形成を図ることができた。



吹屋地区道路美装化事業

④ 自己評価

文化財や歴史的建造物を結ぶ道路が美装化されたことにより、町並みに一体感が生まれ、景観形成への意識向上が図れている。



高梁地区道路美装化事業

⑤ 今後の対応

高梁地区の道路美装化事業は引き続き継続し事業を実施し観光客の回遊性を高めていく。1期計画からの懸案である無電柱化事業については実行に向けての検討を引き続き行う。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
方針	V 滞在型観光の充実に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】

高梁市を訪れる観光客がゆっくりと楽しみながら滞在できるように、歴史的建造物や史跡、名勝などの観光拠点の魅力を向上させる。また、観光客が中長期的に滞在できるようにする。

受け入れ側の住民に対しての環境づくりを行う必要がある。

【方針】

城下町を中心としたウォーキングコースの整備、案内看板の設置を行うほか、空家となっている古民家を再生した宿泊施設の整備、地域の歴史や文化に関する歴史講座等を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	城山ウォーキングコース整備事業	R3:登城道(市道本町松山城線)の舗装 R3~5:大松山吊り橋木製床板取換修繕	あり	R3~R12
2	歴史と文化の普及啓発事業	歴史セミナーの開催 H23~年数回実施。累計84回2,398人	あり	H23~R12
3	古民家再生事業	H30:一棟貸し旅館(1棟目)開業 R7:一棟貸し旅館(2棟目)設計業務	あり	H26~R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○城山ウォーキングコース整備事業

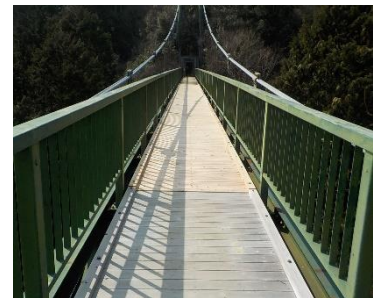
雲海に浮かぶ備中松山城を望むことができる雲海展望台周辺と、臥牛山を縦走する遊歩道や登城道をつなぐ大松山吊り橋の修繕、市道の修繕を行った。

○歴史と文化の普及啓発事業

H23から継続して、高梁市の歴史や文化を学ぶ歴史セミナー「高梁歴史いろは塾」を開催している。近年は年5回の開催で各回30人程度の参加者がある。単独開催のほか、他施設のイベントと共同開催し、横のつながりを広げる試みも行っている。

○古民家再生事業

吹屋地区において、H30に空家を活用した1棟貸し古民家旅館を整備、民間業者により運営を行っている。2棟目として又隣の空き家を整備する計画としており、R7に設計を行った。



大松山吊り橋修繕



いろは塾の様子



2棟目の旅館として整備する空き家

④ 自己評価

備中松山城を回遊するルートの中核である吊り橋修繕、吹屋地区の古民家を活用した旅館の整備を行い、観光客の利便性向上が図れつつある。また高梁歴史いろは塾の開催を継続していることにより、市民に高梁市の歴史的風致を再認識してもらうことができている。

⑤ 今後の対応

引き続き文化財の修理・保存の推進と共に観光客誘客のための周辺整備を行っていく。また普及啓発に努め、市民に地域の魅力の再認識と重要性を広く浸透させる。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
効果	i 歴史的環境の保全・活用		

① 効果の概要

歴史的風致を構成する歴史的建造物や町並み等景観に関わる整備を進めることで、歴史的風致の意識向上を促進する。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高梁市総合計画	あり	R3～
2	高梁市景観計画	あり	H26～
3	高梁市都市計画マスタープラン	あり	R5～
4	高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	S51～

③ 効果発現の経緯と成果

H26に策定した高梁市景観計画は、景観法に基づく様々な制度を有効に活用しつつ、先人から引き継いできたし固有の景観を守り、育て、創造していくため、景観形成の方針を定めることを目的としている。景観計画内の重点地区は、歴史的風致維持向上計画の重点区域を概ね踏襲している。3つの景観形成ゾーンと景観形成道路を定め、歴史的な町並みに即した建築物となるように形態や意匠、色彩などについての基準を設け、町並みの保全に努めている。

景観に資する事業として、高梁市歴史的町並み保存地区整備事業を行っている。高梁地区重点区域に設けている景観形成道路沿いに面した建築物等の修理修景に対し補助を行うことで景観の保全と向上を図っている。

また吹屋地区重点区域では、重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業により、伝統的建造物の保存修理等に対する支援を行っており、歴史的風致の維持向上に大きく寄与している。



補助金を活用した修景

歴史的町並み保存地区整備事業補助金実績					
年度	R3	R4	R5	R6	R7
件数(累計)	74	77	78	79	83

④ 自己評価

景観計画や伝統的建造物群保存地区保存修理事業に基づく歴史的町並みの景観形成を推進してきたことにより、歴史的風致の向上が図られている。町並みの変化により市民や観光客の意識醸成が向上し、観光客数増加や活用推進につながっている。特に吹屋地区では観光客概数がR3の4,984人からR6の7,507人と増加し、店舗数・移住者数ともに増加し活発化している。

⑤ 今後の対応

引き続き景観計画等により良好な景観を整えていくとともに、地域の魅力向上や情報発信等を積極的に行い、観光客や交流人口の増加に努めていく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
取り組み	A 古民家再生事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>R5：該当古民家の寄付 R7：改修工事実施設計</p> <p>高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区はS52に選定を受け、以来保存修理事業を行ってきているが、空き家が増加し町並み景観の維持が困難な状況にある。空き家の有効活用と地域活性化を図るため、H30Iに一棟貸し古民家旅館を開業、順調に営業を続けている。R2にはD&amp;DEPARTMENT(株)より、デザイン性に優れた旅館として選出されており、その建築意匠は多方面から高く評価されている。</p> <p>この古民家旅館の又隣にある空き家を改修し2棟目の旅館とするため、R5に建物の寄付を受け、R7に実施設計を行った。</p> <p>今後改修工事を行い、R9の開業を目指している。</p>		 <p>町家ステイ吹屋 千枚(1棟目)</p>  <p>町家ステイ吹屋 2棟目となる建物</p>	
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区の課題である、空き家対策に対する解決策の一つとして一定の評価を得ており、地域活性化にも貢献できている。重伝建地区の中でも静かな場所に古民家旅館が開業したことにより、観光客の回遊性が向上し、魅力増進が図られている。</p> <p>2棟目が開業することにより、地域活性化・観光の魅力増進・雇用先増加などに資することができると思われる。1棟目の価値を継続できるように改修工事を行っていく。</p>			
外部有識者名	小林正美(明治大学名誉教授)		
外部評価実施日	令和8年5月1日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>国内でも早くから伝統的建造物群保存地区に指定された「吹屋地区」の、特に旧町役場や平屋の建物が並ぶ旧街道沿いに、古民家を再生することにより、連続して魅力ある宿泊施設が整備されることは好ましいことである。一方で、依然として交通事情も悪く、観光客が訪問しにくい地域であることは変わっていないし、近隣の近代的宿泊施設が閉館されたことも、観光環境としてはあまり良くない状況を示している。この事業による費用対効果を上げるため、改修事業自体をストーリー化したり、マスメディアを通じて、外国人や国内観光客に興味を持たせる工夫がなお一層求められる。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>吹屋地区では早くから家屋の修景に取り組んでいるほか、旧吹屋小学校の改修や道路の美装化等歴史まちづくりを推進しているところだが、交通の便の改善や宿泊施設の増加等まだ改善できていない部分が多い。コメントのとおり事業自体のストーリー化を図る等、地区の改修自体に興味を持っていただく工夫を講じていきたい。</p>			

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
取り組み	B 高梁地区道路美装化事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

高梁地区重点区域内の各道路は、武家町や商家町等城下町の姿を色濃く残しており、市民や観光客の往来がある。主要道路の美装化を行うことで、歴史文化を活かした景観の向上、観光客の回遊性の向上及び神輿巡行にふさわしい景観形成を図ることができる。美装化は1期計画でも一部行ったが、2期計画では工法や色調を再考し、施工範囲も拡大して行っている。  
R5から事業を行い、現在790mの施工を完了した。  
色調を1期計画で施工した石火矢町の通りと合わせており、石火矢町から頼久寺町、向町への回遊性が向上した。



施行前



施工後

② 自己評価

2期計画から工法を再考し、事業費・工期ともに削減を図りながら進めている。毎年度着実に施工しており、観光客の回遊性に寄与できている。  
引き続き美装化事業を進めていくことで、高梁地区重点区域の良好な歴史的風致の向上に繋がる。

外部有識者名	小林正美(明治大学名誉教授)
外部評価実施日	令和8年5月1日

③ 有識者コメント

道路の美装化事業は継続して実施されることで、町全体が「歴史を生かした景観整備」を行っていることを視覚的に示す良い効果を生んでいる。一方、単に美しい景観を再生することに留まらず、観光資源を道すがらに導く米国ボストン市の「フリーダムトレイル」のように、街並みと一体となって、「点」としての観光資源を「線」にしていくことに強く貢献することが期待される。

④ 今後の対応

少しずつではあるが着実に施工できており、今後も引き続き美装化を行い回遊性の向上を図っていく。コメントのとおり観光資源を「点」から「線」にしていき、歴史まちづくり及び観光としての魅力の向上につなげていきたい。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	1 城下町高梁に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的町並みの保存に関する方針 II 歴史的建造物の保存・修理及び活用に関する方針 III 伝統文化の保存・継承に関する方針 IV 周辺景観に関する方針 V 滞在型観光の充実に関する方針		

① 歴史的風致の概要

A.城下町の構造と祭礼に見る歴史的風致

備中松山城の城下町である市街地には、江戸時代前期から形成されてきた武家屋敷、寺社、商家町の町割りが残り、当時の面影を残す歴史的建造物も数多くみられる。

御前神社等の祭礼である千歳楽では、歴史的町並みを背景に神輿が巡行し、それを迎える家々では無病息災を願って祈る。備中松山藩主板倉家の始祖を祀る八重籬神社では、始祖の命日にあわせて近隣の住民が中心となり今もなお江戸時代から続く祭礼を継承している。また、城下各所に点在する七恵比寿は、商売繁盛などを祈願する地域住民の生活に根付いた民間信仰の広がりを示すものであり、現在の日常的な風景に溶け込んでいる。

このように江戸時代から連綿と受け継がれている神社の祭礼や民間信仰は、城下町の歴史的景観と一体化し、歴史的風致を形成している。

B.松山踊りに見る歴史的風致

約400年の伝統を誇る松山踊りは、踊りの種類や芸態、踊り場に変容がみられるものの、江戸時代から続く音頭取りの歌に太鼓、三味線の伴奏という伝統的な盆踊りの形態を維持する「地踊り」に加え、武士の子弟による「仕組踊り」、周辺地で踊られた「ヤトサ」で構成されている。

当時の武士や町人の思いが込められた盆行事として継承され、市街地を舞台に展開される松山踊りは、当地の夏を彩る風物詩として、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

○高梁地区道路美装化事業

重点区域内の道路美装化を進めている。R5に該当道路を870mから2,300mに拡大、周囲と調和し連続した景観の形成ができるよう計画変更を行った。R7で間之町から向町、頼久寺町の道路790mの美装化が完了、すでに完了している石火矢町の美装化道路と繋がり、来訪者の回遊性の向上、神輿巡行にふさわしい景観形成を図ることができている。



向町の美装化

○高梁市歴史的町並み保存地区整備事業

景観計画における景観形成道路沿いの建築物等を対象に、外観の保存修理・修景に補助を行っている。28年間で83件の補助金交付があり歴史的町並みの維持に寄与している。

○松山踊り保存伝承活動推進事業

松山踊りは岡山県の重要無形民俗文化財に指定されている民俗芸能である。保存継承に必要な活動経費と用具の整備にかかる費用について補助を行い、その活動を支援している。



補助金を使った修理(土塀)

③ 自己評価

歴史的町並みに息づく祭礼や民俗芸能は住民主体で継承されている。町並みの整備を行うとともに、伝統文化や歴史的町並みの継承・理解促進に注力する必要がある。

④ 今後の対応

引き続き景観の維持向上に努めるとともに、歴史的風致への理解・意識向上に努める。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	2 銅山と弁柄による繁栄に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的町並みの保存に関する方針 II 歴史的建造物の保存・修理及び活用に関する方針 IV 周辺景観に関する方針 V 滞在型観光の充実に関する方針		

① 歴史的風致の概要

吹屋地区は、かつて銅と弁柄の生産で繁栄した鉱山町で、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。赤褐色の瓦や弁柄塗りの格子で彩られた町並みが残り、その町並みから広がる眺望範囲には、銅と弁柄に関する様々な歴史的建造物や遺跡が残され、吹屋の町並みと一体的に歴史的景観を形成している。

また、当地を代表する祭礼と信仰は、銅と弁柄の産業が衰退し、過疎化や少子高齢化が進行した中でも地域住民によって脈々と受け継がれている。

このように、銅や弁柄に由来する歴史的景観と、地域の祭礼や信仰、弁柄を生かした特産品の創出などの人々の営みは、吹屋独特の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

○旧吹屋小学校校舎保存修理事業

明治期に建てられた木造校舎の保存修理工事を行った。地域のシンボルともいえる旧吹屋小学校が公開施設となったことにより、日本遺産推進事業で日本遺産センターを設置し、ガイダンス施設としても活用できるようになった。

また、旧吹屋小学校周辺整備事業により、小学校プール跡地を親水公園として整備し、地域の交流場所、イベント会場として活用できるよう整備した。

○古民家再生事業

重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業により修理・修景補助を行い、町並みの整備が進んでいるが、空家の増加による問題を解消するため、古民家を再生した1棟貸し旅館を整備し地域住民により運営されている。

令和7年度に2棟目の設計を行い、今後改修工事を行っていく予定であり、町並み維持と地域の働き場所として活用できるよう進めている。

○吹屋地区道路美装化事業

高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区を貫通する道路の舗装が荒廃していたことから道路美装化を行った。これにより安全な歩行空間と町並み景観の向上が図られた。



旧吹屋小学校と親水公園



町家ステイ吹屋 千枚



町並みと美装化した道路

③ 自己評価

施設整備等を進めてきたことにより、町並みの景観が保たれ、観光客や商店、さらには移住者の増加へとつながっている。

町に活気が生まれイベント等の開催も多くみられるようになった。

④ 今後の対応

重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業を引き続き行い、歴史的町並みの維持に努める。また、日本遺産事業による観光拠点整備、古民家再生事業による町家の活用等を行いながら、地域住民と連携し、歴史的風致の向上に努める。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	3 備中神楽に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅲ 伝統文化の保存・継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

備中神楽（重要無形民俗文化財）は、岡山県西部地域に古くから伝わる神楽である。江戸時代後期には、地元の神官 西林國橋（にしばやしこっきょう）により、演劇性に富む神代神楽が創作され、当地域を代表する民俗芸能として定着している。一般に「宮神楽」と称される神楽は、五穀豊穡を感謝して宵祭りに拝殿や境内に特設される「神殿（こうどの）」を舞台として、近郷から多くの氏子が集い、太鼓や鉦の音が神社周辺の地域にまで響き渡る。斎灯が灯される中、深夜まで演じられ、地域の秋を彩る風物詩となっている。

市内各所の神社の境内地などで五穀豊穡や家内安全を祈願して奉納される備中神楽は、人々の営みと信仰が織りなす歴史的風致を形成している。

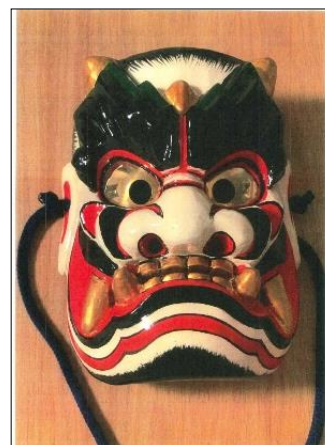
② 維持向上の経緯と成果

○ 備中神楽・渡り拍子保存伝承活動推進事業

備中神楽の保存伝承育成を行う保存会や育成会の活動経費と用具の整備に対して、市が財政的な補助を行い、その活動を支援するもの。

少子化により担い手が減少しているため、活動団体の解散や活動休止がみられる。

継続して支援を行うほか、活動の周知や「備中神楽研修会」の開催などを行い、活動の継続を支援することで、伝統芸能の維持保存につなげることができている。



用具整備（建御名方命面）

【活動費補助額(千円)】	R3	R4	R5	R6	R7
備中神楽保存団体	46	80	265	475	413
備中神楽育成団体	1,082	1,093	1,118	1,108	1,004

③ 自己評価

コロナ禍により活動休止がみられたが、現在はコロナ前の状況に戻りつつある。備中神楽団体の県外公演や、ユネスコ無形文化遺産を目指して神楽の全国組織が立ち上がる等活発な活動がみられるようになっている。



備中神楽公演の様子

④ 今後の対応

引き続き継続的な活動の支援に努めながら、支援のPRや公演・イベント等の周知にも努め、活動団体数を維持していく必要がある。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
歴史的風致	4 渡り拍子に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅲ 伝統文化の保存・継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

渡り拍子（県指定重要文化財（無形民俗文化財））は、秋季祭礼での神輿の巡行に際して五穀豊穡や家内安全を祈願し奉納される供奉楽であり、広く備中地域の山間部で伝承されている。華やかな衣装で飾った4人1組の跳び子が、鉦に合わせて太鼓の回りを跳びながら、バチで打ち踊る勇壮で華麗な民俗芸能である。

渡り拍子は、歴史ある神社の境内地や氏子の家々を舞台に奉納され、のどかな農村景観と人々の営み、信仰が一体となった歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

○備中神楽・渡り拍子保存伝承活動推進事業  
 渡り拍子の保存伝承育成を行う保存会や育成会が活動する経費と用具の整備に対して、市が財政的な補助を行い、その活動を支援するもの。

少子化により担い手が減少しているため、活動団体の解散や活動休止がみられる。

地域により衣装が異なる等の特徴がみられるが、人口減少により継続が難しく伝統が消えつつあるところもある。

しかし、休止していた活動を再開した団体もあり、活動の継続の必要性を感じている。



渡り拍子（花笠）

渡り拍子伝承育成団体	R3	R4	R5	R6	R7
補助交付金額（千円）	130	260	320	300	340
補助交付団体数	7	11	15	15	17

③ 自己評価

地域に密着した伝統芸能であり、残していきたい祭礼だが、地域の人口減少により継続が難しい団体もある。

活動補助が活動継続の支援の一助となっている。



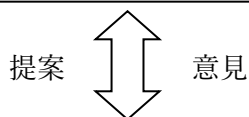
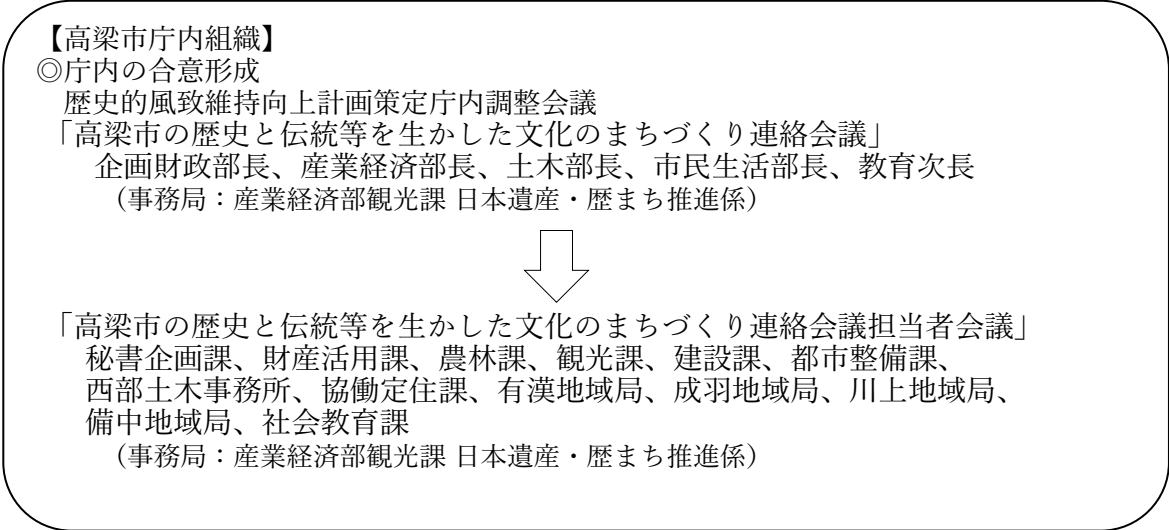
渡り拍子（鳥毛）

④ 今後の対応

引き続き継続的な活動の支援に努めながら、秋祭り等の周知にも努めていく必要がある。地域の伝統を維持保存する活動が必要になる。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
------	-----	--------	-------

① 庁内組織の体制・変化



【検討組織（法定協議会）】  
 ◎歴史的風致維持向上計画策定協議会

高梁市歴史的風致維持向上計画の推進体制については、計画策定時の実施体制を継承し、歴まち担当課（現在は観光課）が事務局を務め、事業推進に関係の深い部署による連絡会議を行い、事業運営を図ることとしている。また下部組織として担当者会議を設置している。

また、法定協議会である「高梁市歴史的風致維持向上計画策定協議会」を、有識者や市内団体等で構成し、毎年協議会を開催している。事業に関する進ちょく状況の報告や意見聴取を行い、計画の推進を図っている。



② 庁内の意見・評価

庁内職員が「歴史的風致維持向上計画」について理解を深める必要がある。  
 事業の内容や規模の大小にかかわらず、横の連携を取り、情報共有や連携の強化を図る必要がある。

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
<p><b>① 住民意見</b></p> <p>（歴史と文化の普及啓発事業「高梁歴史いろは塾」アンケートから 回答数73 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高梁市が歴史的景観都市に認定されていることを知っていましたか。              知っていた・・・48      知らなかった・・・25</li> <li>●高梁市は歴史まちづくりに取り組む必要があると思いますか。              必要がある・・・70      必要ない・・・0      わからない・・・3</li> <li>●高梁市の歴史まちづくりに関わってみたいと思いますか。              ぜひ関わりたい・・・12      興味はある・・・58      あまり関わりたくない・・・1      関心ない・・・1</li> <li>●高梁市の歴史や文化、芸術は親しみやすいと思いますか。              思う・・・41      普通・・・30      思わない・・・1</li> <li>●15年前と比べて高梁市の景観の整備状況をどう思いますか。              よくなっている・・・28      変わらない・・・19      悪くなっている・・・16      わからない・・・8</li> </ul> <p>●意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の頃から郷土の歴史・文化をもっと学ぶ必要があると思う。</li> <li>・市民の減少と高齢化で現状維持も難しくなっているのか。火災等の対策として狭い道路での延焼を防ぐ等も心配になる。</li> <li>・古い建物が次々と壊されて更地や新しい建物が古い建物の中に増えていく事は寂しい。町民の民意の頑固さも高梁気質もあるが、将来的な見方を考えて高梁の町並の歴史を残していく方法も探してほしい。目に見える風景として後世に残してほしい。</li> <li>・自分たちが住んでいる町の歴史を知ることが大切だと思う。先人が残してくれている身近にあるものを見なおして大切にすること、次の世代へつなげていくこと。</li> <li>・歴史のまちをもっと残していけばいいと思う。</li> <li>・家がどんどん倒されていくのが悲しい。住んでいる人にとっては不便・不自由なのだと思うが。</li> <li>・吹屋は良くなっているが、高梁の街中はひどい状態だと思う。</li> <li>・市民に向けてもっと知らせる手立てが必要かも。</li> <li>・歴史はほどほどに、現在に生きる人達がリピートで楽しめる文化・芸術。これと言った特徴がなく他市から面白くない町と言われている。山田方谷からそろそろ方向転換しなければ。無い金の無駄遣いをやめましょう。</li> </ul>			
<p><b>② 協議会におけるコメント</b></p> <p>・歴まち計画策定から約30年経過しているが、コロナ禍もあり観光客数の増加には至っていない。宿泊施設が少ないことが要因の一つと考えられ、高梁は通過点の一つという扱い。高梁城下町地区と吹屋地区の2つの重点地区を設定し歴まち事業を進めているが、距離が離れていることやアクセス手段が少ないこともあり連携が取れていない印象。観光要素はたくさんあるのに回遊できていないのはもったいない。2期計画では「滞在型観光の充実」を加えており、レンタカー店舗やグリーンスローモビリティの運行等整備が見られるが、両重点地区のアクセス手段の対応を検討する必要がある。</p> <p>・無電柱化事業の実行に時間がかかっている。歴まち計画策定当初から掲げている事業だが未だに実現されていない。景観形成にとって重要な事業でありぜひ実現させてもらいたい。</p> <p>・渡り拍子について危機感を持っている。高齢化・過疎化が進行しており補助金だけで継続できるのか。効果的な方法を検討していただきたい。</p> <p>・周遊コース整備事業などまだ実行できていない事業を推進していただきたい。</p> <p>・約30年間歴まち計画を遂行してきたが町が変わった印象は薄い。予算がないことは理解しているが何とか進めていただきたい。地元の間でもできるところからやっていきたいと思う。</p>			

市町村名	高梁市	評価対象年度	R3～R7
<p><b>① 全体の課題</b></p> <p>①多くの歴史的建造物等が傷んだ状態で残っており、費用面からも活用面からも先が見通せない状態である。歴史的町並みについても、人口減少に伴う空き家や空き地が増加しており、町並みの連続性が失われるケースが見られる。</p> <p>②伝統文化の保存継承について、少子化により担い手が減少しているため、活動団体が減少・規模縮小しており、地域での継承が困難な状況にある。</p> <p>③景観計画に基づき行っている事業・整備や、歴史的建造物等の整備による観光拠点の魅力向上がうまく観光誘客数に繋がっていない。</p> <p>④担当部局との綿密な連携が必要と考える。</p>			
<p><b>② 今後の対応</b></p> <p>①歴史的建造物を次世代へ残す方法を探りながら適切な修理・保存活用を図る。現場公開等の周知を積極的に行うことで意識の醸成につなげながら事業推進を図る。城下町地区については、歴史的町並み保存地区整備事業補助金を引き続き継続し町並みの保存に努めるとともに、歴史的町並みが高梁市の歴史的風致を形成する大切な資産である、と市民に認識してもらうため、活動の周知に努める。吹屋地区については、重要伝統的建造物群保存地区として保存修理事業を引き続き行い、歴史的町並みの維持に努める。また、日本遺産事業による観光拠点整備、古民家再生事業による町家の活用等を行いながら、地域住民と連携し、歴史的風致の向上に努める。</p> <p>②引き続き継続的な活動の支援に努めながら、支援のPRや公演・イベント等の周知にも努め、活動団体数を維持していく必要がある。神楽がユネスコ無形文化遺産登録候補になる等地道な活動の成果は見えているが、後継者の育成は依然厳しい状態である。引き続き補助を行うほか周知を行う等保存活動の支援を行っていく。</p> <p>③文化財の修理・保存の推進とともに観光客誘客のための周辺整備を行っていく。また普及啓発に努め、市民に地域の魅力の再認識と重要性を広く浸透させる。高梁地区の道路美装化事業は引き続き継続して事業を実施し、観光客の回遊性を高めていく。懸案である無電柱化事業については実行に向けての検討を行う。また、景観計画等により良好な景観を整えていくとともに地域の魅力向上や情報発信等を積極的に行い、観光客や交流人口の増加に努めていく。</p> <p>④庁内職員が「歴史的風致維持向上計画」について理解を深める必要がある。事業の内容や規模の大小にかかわらず、横の連携を取り、情報共有や連携の強化を図っていく。</p>			